

## 新生の集い

カレンガ神父

今から一年前に始まった信仰年、そして半年前に始まった姫路地区大会が終わろうとしています。

「信仰年はあと少しで終わってしまうの？」 「特別な行事はしなかったけど地区大会は終わるの？」など不安を交えた希望の声に応えて、信仰年の中で祝う、締めくくりの地区大会を「終わりの集い」と呼ばず、「新生の集い」という名前で締めくくる形になりました。この「新生の集い」を、私たちは敢えて「派遣の集い」と呼んでもいいと思います。

感謝の祭儀において、司祭は最後の挨拶で「行きましょう。主の平和の内に」「ite missa est」と皆さんに呼びかけます。この最後の言葉[ミサ]は派遣を意味する言葉ですが感謝の祭儀全体を示す言葉となりました。ここで、解散するのではなく、今から私たちは証し人として派遣されて行くということです。

この信仰年も、地区大会も今日で終わるのではありません。信仰年と地区大会を祝って来た私たちは、今から派遣されるのです。

教会の中心であり、教会の活動が目指す頂点である感謝の祭儀は派遣に繋がります。一人で派遣されるのではなく、皆が共に「派遣」されるのです。

「共に派遣されている」というのが、先程読まれた聖書のみ言葉のテーマです。

私たちは神様と共に派遣されています。

マタイ 28 章 19-20 節にはこう書かれています。

「私は世の終わりまで、いつもあなた方と共にいる。」

つまり我々の牧者として神様はいつも共にいてくださるのです。

エフェソの信徒への手紙には、

神の母マリアを始め、神の愛の広さ、長さ、高さ、深さを体験した聖人たちと共に派遣されています(エフェソ 3,17-20)。と書いてあります。

さらに、わたしたちは兄弟姉妹と共に派遣されているのです。その兄弟とは子供、青年、司祭、高齢者、外国人、病人、修道者、キリストに出会っていない人など、ありとあらゆる人をさしています。

「信仰年」のはじめに、池長大司教が、「それぞれの場」で、改めて信仰に生きる決意を強める機会をもつようにと言われたとおり、大阪教区と姫路地区は、祈りを通して「それぞれの場」で、「共に歩む試み」をしてきました。

姫路地区の地区大会、各小教区が「それぞれの場」で集いを催したりし、そこで情報を交換するだけでなく、関心を持つ他の小教区の方もその行事に参加してきました。

私たちの信仰が、共に行動を起こすことによって、更に強められたことを確信しています。更に、これから私たちは、教会に限らず、日々の生活の中で、世界全体に関心を持つといいと思います。いつも、教会に足を運んで来てもらうだけではなく、教会の外や、社会へ足を運んで行く必要があります。

その場合、常に気を付けなければならないことがあります。それは、立ち返る自分の所属小教区を足

場にしないで、いつも他の小教区や、社会へ飛び込む状態にあってはいけないということです。このことは、信徒として霊的にバランスを失いかねないからです。

また反対に、「共に歩む教会」の妨げとなる要因として、「内向き教会」についても、話し合ってみました。

この場で少し分かち合ってみましょう。「内向きの教会」の姿の例としては

- ・ 自分の小教区のことや、自分の信仰のことだけで精一杯。
- ・ 自分に合わせようとする教会、この場合、他の人は付いて行けないでしょう。
- ・ 例外の多い教会、その例外を認める司牧者の気持ちはよくわかります。

「モーセが離縁状を設定したのは、あなたたちの心が頑固なのでそのようにした」とイエスさまが説明したこの事は、司牧者としては、その頑固な心に妥協するべきか、逃げるべきか悩むでしょう。どちらかを選択しておかないと、病気になりかねませんから。

・ 司祭がいなくなった時どうするかということしか考えていない教会では、新しい司祭が来たとき、司祭が担当すべき教会であるにも関わらず、司祭はその教会のお客様としての扱いを受けることになるでしょう。

皆さんは、現状をどのように受け止め、どのようにしたら良いと思われるでしょうか？パウロが述べているように、神の国を証しし、神の国を目指して、共に神の愛の深さ、高さ、広さの喜びから、だれが、わたしたちを引き離すことができましょう。

ローマの信徒への手紙 8 章 35 節には、艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。とありますが、わたしたちにとっては、仕事か。年齢か。疲れか。塾か。子育てか。勉強か。噂か。信徒の人数か。司祭不足か。というところでしょうか。

そして 37 節の、「しかし、これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によって輝かしい勝利を収めています」という言葉を心に留めてわたしたちも共に歩みましょう。

「共に歩みましょう」と言われて、皆様の中には、時間的に、年齢的に、今さらできないんだという方、又は、司祭不足と、信徒の減少で、無理やわと思われている方がいらっしゃるかもしれません。

でも実際には妨げはありません。今からでも大丈夫です。

聖アウグスティヌスのこの祈りを共に祈りたいと思います。

「神よ、あなたに出会ったのは遅かったけど、遅くない。」

今からでもいいですよ。安心して今から共に学び、歩んで行きましょう！！